

●南風原町地域福祉にかかわる町民意識調査報告書より

1. 調査の目的

- ・第3次計画を策定するにあたり、町民の地域福祉に関する意識や地域活動等への参加状況、地域福祉推進における課題等を把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的として町民意識調査を実施した。

2. 調査の実施方法

(1) 調査の対象者

- ・本調査の対象者は、町内在住の20歳以上とし、町の住民基本台帳より3,100人を無作為に抽出。

(2) 調査方法

- ・郵送による配布・回収およびWebアンケート

(3) 調査期間

- ・令和5年2月2日～令和5年2月24日

(4) 回収率

- ・調査対象者数：3,100件 総回収数：1,165件 回収率 37.6%

⌈	うち		
	紙による調査の回収状況	回収数：784件	回収率 25.3%
	Webによる回収状況	回収数：381件	回収率 12.3%

(5) 調査項目

- ・基本的なことについて（小学校区、性別、年齢、職業、世帯構成、住宅の種類 など）
- ・地域との関わりについて（居住年数、自治会への加入、住みごころ、近所付き合い、孤立 など）
- ・困っていることや相談について（生活の不安、相談相手 など）
- ・福祉への関心と情報について（地域の福祉情報の入手方法 など）
- ・地域福祉の推進について（地域福祉を実現していく上での問題点、学びの機会の参加の有無、参加したい内容、福祉の充実で必要なこと）
- ・福祉サービスの利用について（不都合や不満の有無、内容 など）
- ・地域福祉に関連する用語について（社会福祉協議会、民生委員・児童委員の周知状況 など）
- ・成年後見制度等について（成年後見制度、日常生活自立支援事業の認知度 など）

3. 調査結果より抜粋

(1) 世帯構成

問6 あなたの世帯構成は次のどれですか。

世帯構成は、「夫婦と未婚の子のみの世帯」の割合が43.5%と最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」が21.2%、「ひとり暮らし」が12.7%と続きます。

※以下、世帯構成の表記は、「夫婦のみ世帯」を「夫婦のみ」、「夫婦と未婚の子のみの世帯」を「夫婦と子」、「ひとり親と未婚の子のみの世帯」を「ひとり親と子」、「三世帯世帯(親、子、孫の同居世帯)」を「親・子・孫」、「その他の世帯」を「その他」とします。

●前回アンケート結果より

- ・世帯構成は、「夫婦と未婚の子のみの世帯」が40.7%と最も高く、これに「ひとり親と未婚の子のみの世帯」の7.0%を合わせると、核家族世帯が全体の47.7%を占めます。続いて「夫婦のみ世帯」が18.9%、「ひとり暮らし」が15.0%、「三世帯世帯(親、子、孫の同居世帯)」が8.3%となっています。

年代別にみると、「夫婦と子」世帯の割合は年代が高くなるほどおおむね低くなる傾向にあり、特に「50代」から「60代」にかけて大きく低下しています。

「夫婦のみ」と「ひとり暮らし」世帯の割合は、40代から70代にかけて年代が上がるとともに高くなる傾向があり、「夫婦のみ」世帯は、「40代」では6.2%だったものが「70代」では43.9%に、「ひとり暮らし」世帯も、「40代」で6.2%であったものが「70代」では22.6%となっています。

●前回アンケート結果より

- ・「夫婦と子」は、年代が高いほど割合は低くなる傾向にあり、特に「50代」から大きく低下します。
- ・「夫婦のみ」は、年代が高いほど割合は高くなる傾向にあり、「40代」までは10%未満ですが、「50代」以降では20%以上あります。特に、「60代」が39.3%と最も高くなっています。
- ・「ひとり暮らし」も年代が高いほど割合も高く、「50代」、「60代」で10%半ば、70代以上の割合が20%以上と高くなり、中でも「80代」は28.8%となっています。

(2) 住宅の種類

問8 あなたがお住まいの住宅は次のうちどれですか。

現在の住まいは、「持ち家(一戸建て)」の割合が53.1%と最も高く、次に「賃貸のアパート、マンション等」が34.4%となっています。

●前回アンケート結果より

- ・住宅の種類は、「持家(一戸建て)」が52.1%と最も高く、次に「賃貸のアパート、マンション等」が36.3%となっています。

年代別にみると、「持ち家(一戸建て)」の割合は、他の年代に比べれば、「20代」と「30代」が3割前後と低いものの、「40代」以降は年代が上がるほど高くなり、「80代以上」では8割を超えています。一方、「賃貸のアパート、マンション等」は「20代」(59.1%)と「30代」(60.1%)で半数以上を占めており、それに対し、「80代以上」では1割未満となっています。

●前回アンケート結果より

- ・年代別にみると、「持家(一戸建て)」は「20代」から「40代」が20～30%台と低く、「50代」以降年代が高いほど割合も高くなり、「80代」では82.2%となっています。
- ・「賃貸のアパート、マンション等」は若い世代で割合は高く、特に「20代」が60.4%、「30代」は62.1%と半数以上を占めています。それに対し、「80代」では8.2%となっています。

小学校区別でみると、「持家(一戸建て)」の割合は「翔南小学校区」が64.3%と最も高く、次いで「北丘小学校区」が62.2%、「南風原小学校区」が57.1%、「津嘉山小学校区」が32.6%と続き、「津嘉山小学校区」では「持家(一戸建て)」の割合が低くなっています。

「賃貸のアパート、マンション等」は「津嘉山小学校区」が53.5%と最も高く、次いで「南風原小学校区」が30.6%、「北丘小学校区」が27.3%、「翔南小学校区」が23.0%と続きます。

●前回アンケート結果より

- ・小学校区別では、「持家(一戸建て)」は「翔南小学校区」が65.1%と最も高く、次に「北丘小学校区」の59.2%、「南風原小学校区」は58.0%となっています。「津嘉山小学校区」が29.8%と最も低くなっています。
- ・「賃貸のアパート、マンション等」は「津嘉山小学校区」が52.5%と最も高く、次に「北丘小学校区」の34.5%、「南風原小学校区」は32.9%となっています。「翔南小学校区」が20.4%と最も少なくなっています。

世帯構成別にみると、「持ち家(一戸建て)」の割合は「親・子・孫」の三世帯世帯が82.6%と最も高く、続いて「夫婦のみ」の世帯が68.4%、「その他」の世帯が55.0%となっています。また、「ひとり暮らし」が31.1%と最も低くなっています。

一方、「賃貸のアパート、マンション等」は「ひとり暮らし」が49.3%と最も高く、次に「夫婦と子」のいる世帯が40.2%、「ひとり親と子」のいる世帯が33.8%となっています。また、「親・子・孫」の三世帯世帯が7.6%と最も低くなっています。

●前回アンケート結果より

- ・世帯構成別にみると、「持家(一戸建て)」は「親・子・孫」の三世帯世帯が84.9%と最も高く、続いて「その他」の世帯が65.9%、「夫婦のみ」の世帯が65.3%となっています。また、「ひとり暮らし」が34.2%と最も低くなっています。
- ・「賃貸のアパート、マンション等」は「ひとり暮らし」が54.2%と最も高く、次に「ひとり親と子」のいる世帯が43.1%、「夫婦と子」のいる世帯が42.8%で、「親・子・孫」の三世帯世帯が9.3%と最も低くなっています。

(3) 出身地

問9 あなたの出身地を教えてください。

出身地は、「南風原町以外の県内」の割合が55.5%と最も高く、次いで「南風原町」が37.3%、「県外」が6.5%、「外国」が0.1%となっています。

小学校区別にみると、「南風原町」の出身者の割合は、「翔南小学校区」が50.2%、「津嘉山小学校区」が36.5%、「北丘小学校区」が33.9%、「南風原小学校区」が33.7%で、「翔南小学校区」が最も高くなっています。

一方、「南風原町以外の県内」の出身者は「北丘小学校区」が59.5%、「南風原小学校区」が58.8%と高く、「翔南小学校区」が44.1%と最も低くなっています。また、「県外」出身者の割合は「津嘉山小学校区」が8.0%と最も高くなっています。

●前回アンケート結果より

- ・「南風原町」が37.5%となっております。町外出身者では、「南風原町以外の県内」が55.8%と最も高く、「県外」の6.1%、「外国」の0.2%を合わせると全体の62.1%を占めます。
- ・小学校区別にみると、「南風原町」の出身者は「翔南小学校区」が50.0%と最も高く、次に「津嘉山小学校区」が37.4%となっています。また、「南風原小学校区」が33.7%と最も低くなっています。
- ・「南風原町以外の県内」の出身者は「北丘小学校区」が57.7%、「南風原小学校区」が57.6%と高く、「翔南小学校区」が46.2%と最も低くなっています。また、「県外」の出身者は「南風原小学校区」が8.2%と最も高くなっています。

(4) 居住年数

問10 あなたは、南風原町に何年（令和5年1月1日現在）ほどお住まいですか。

南風原町における居住年数について、全体では、「30年以上」の割合が40.8%と最も高く、次いで「20年～30年未満」が17.8%、「5年～10年未満」が9.4%と続いています。

年代別にみると、居住年数が「30年以上」の割合は年代が上がるとともに高くなる傾向にあり、「30代」から「50代」は20～30%台ですが、「60代」では60%半ば、70代以上では70%台となっています。また、「20年～30年未満」の割合は「20代」が43.5%と最も高く、次に「50代」が25.6%となっているほか、「1年未満」と「1～3年未満」の割合は年代が高いほど低くなる傾向があります。

●前回アンケート結果より

- ・居住年数については、「30年以上」が43.3%と最も高く、次に「20年～30年未満」が14.2%となっています。20年以上住んでいる方は57.5%、10年以上住んでいる方は72.9%います。
- ・「30年以上」は年代が上がるとともに高くなる傾向にあり、「30代」から「50代」は20～30%台ですが、「60代」、「70代」は70%台、「80代」は最も高く84.9%となっています。
- ・「20年～30年未満」は「20代」が44.8%と最も高く、次に「50代」が20.7%となっています。
- ・「1年未満」、「1～3年未満」は年代が高いほど割合は低くなっています。

小学校区別にみると、居住年数が「30年以上」の割合は、「翔南小学校区」が50.2%と最も高く、次いで「北丘小学校区」が47.1%、「南風原小学校区」が40.5%の順で、「津嘉山小学校区」は28.2%と最も低くなっています。なお、居住年数が「20年～30年未満」の割合は「南風原小学校区」が20.7%と最も高く、次に「北丘小学校区」が18.3%となっています。

●前回アンケート結果より

- ・小学校区別にみると、「30年以上」は、「翔南小学校区」が54.8%と高く、次に「北丘小学校区」が44.5%、「南風原小学校区」が42.4%となり、「津嘉山小学校区」が35.5%と最も低くなっています。
- ・「20年～30年未満」は「北丘小学校区」が19.1%と最も高く、次に「南風原小学校区」が14.8%となっています。

(5) 自治会への加入状況

問11 あなたの世帯は、地域の自治会に加入していますか。

自治会への加入について、全体では、「加入している」割合が50.8%、「加入していない」割合が43.9%と加入世帯が約半数を占めています。

年代別にみると、「加入している」割合は、おおむね年代が上がると高くなる傾向にあり、特に「30代」と「40代」との間で急激に高くなっています。なお、最も低い「30代」が23.2%であるのに対し、「70代」では75.0%と世代間で加入状況に大きな違いがあります。

●前回アンケート結果より

- ・自治会への加入については、「加入している」が53.8%、「加入していない」が35.1%と加入世帯が半数を占めます。
- ・年代別にみると、「加入している」は年代があがると割合も高くなり、「20代」が28.1%であるのに対し、「80代」では82.2%となっています。逆に、「加入していない」は年代が高くなるほど割合は低くなる傾向にあります

行政区別にみると、今回調査では「宮平ハイツ」が90.9%と最も高く、次いで「兼本ハイツ」が87.5%と続いています。そのほか、「東新川」と「兼平」以外の行政区では全てが80%未満で、加入率が最も低い「本部」は31.3%となっています。

●前回アンケート結果より

- ・行政区別に自治会加入率(「加入している」の割合)をみると、「北丘ハイツ」が対象者が少ないものの100.0%となっています。次いで「兼本ハイツ」が90.0%、「第一団地」、「第二団地」が87.5%、そのほかの行政区は80%未満となっています。加入率が最も低いのは「本部」で31.1%となっています。

小学校区別にみると、自治会へ「加入している」割合は、「翔南小学校区」が64.8%と最も高く、「南風原小学校区」と「北丘小学校区」は50%台、「津嘉山小学校区」が32.9%で、「津嘉山小学校区」の自治会加入率が低いことが見てとれます。

住宅の種類別にみると、自治会へ「加入している」割合は、「持ち家(一戸建て)」、「公営住宅(団地等)」で、それぞれ70%以上と高く、次に「借家(一戸建て)」が50.0%となっています。また、「賃貸のアパート、マンション等」では加入率が11.5%と最も低くなっており、賃貸住宅入居者に対し自治会加入を促進する必要性がうかがえます。

●前回アンケート結果より

- ・住宅の種類別に加入率をみると「公営住宅(団地等)」90.0%と最も高く、公営住宅によっては規約等で自治会への加入が定められていることがうかがえます。次に「持ち家(一戸建て)」が78.3%、「社宅・官舎、公舎」が42.9%、「借家(一戸建て)」が40.0%となっています。

(6) 自治会に加入していない理由

問12 自治会に「加入していない」のはどうしてですか。

「(5)自治会への加入状況」で、「加入していない」と答えた方にその理由を尋ねたところ、「仕事等でゆとりがなく自治会活動に参加できないから」の割合が30.7%と最も高く、次いで「必要性を感じないから」が15.8%、「自治会活動がわからないから」が11.5%と続きます。

なお、「加入方法がわからないから」が6.8%、「加入したいが自治会からの勧誘がないから」が2.1%、合わせると1割弱の方が加入の意志はあるが機会を得られず加入していない可能性があり、問い合わせ先の周知や加入促進策の推進が必要な状況がうかがえます。

●前回アンケート結果より

- ・自治会に「加入していない」理由については、「仕事等でゆとりがなく自治会活動に参加できないから」が35.3%と最も高くなっています。続いて「必要性を感じないから」が13.8%、「自治会活動がわからないから」が9.6%で比較的高くなっています。

世帯構成別にみると、「仕事等でゆとりがなく自治会活動に参加できないから」の割合が全体的に高くなっていますが、「夫婦と子」世帯、「親・子・孫」世帯は特に高く、いずれも3割台半ばとなっています。

そのほか、「必要性を感じないから」の割合が、「ひとり暮らし」で24.4%、「夫婦のみ」で21.5%と比較的高く、「自治会活動がわからないから」は「夫婦のみ」、「夫婦と子」、「ひとり親と子」、「親・子・孫」でそれぞれ1割台半ばとやや高くなっています。

●前回アンケート結果より

- ・世帯構成でみると、「仕事等でゆとりがなく自治会活動に参加できないから」では「ひとり親と子」と「夫婦と子」が高く、40%半ばあります。
- ・「必要性を感じないから」は、「ひとり暮らし」が18.7%と最も高く、次に「夫婦のみ」が18.4%となっています。

(7) 地域の住みごこち

問13 あなたは、南風原町の住みごこちについてどう思いますか。

南風原町の住みごこちについて尋ねたところ、「住みよい」の割合が45.8%と最も高く、次いで「とても住みよい」が41.6%、「どちらともいえない」が10.5%と続いています。

小学校区別にみると「とても住みよい」と「住みよい」を合わせた割合は、「津嘉山小学校区」が90.7%と最も高く、「南風原小学校区」、「北丘小学校区」、「翔南小学校区」はそれぞれ80%台となっています。

●前回アンケート結果より

- ・南風原町の住みごこちについてどう思うかについては、「住みよい」が48.2%と最も高く、「とても住みよい」が39.9%で、合わせると88.1%の方が住みよいと答えています。一方、「どちらともいえない」が10.2%、「住みにくい」は0.8%と答えています。
- ・小学校区別にみると「とても住みよい」と「住みよい」を合わせた割合に大きな違いはありませんが、「とても住みよい」は、「南風原小学校区」が46.5%、次いで「津嘉山小学校区」が43.0%と高く、「翔南小学校区」と「北丘小学校区」では30%台となっています。

年代別にみると、「とても住みよい」と回答した人の割合が高いのは「20代」と「30代」で半数以上を占めています。一方、「60代」と「70代」ではいずれも3割弱と他の年代と比較すると低くなっています。

「住みよい」と「とても住みよい」を合わせると、最も高い「20代」で9割以上に達し、他の年代でも全て8割を超えています。

●前回アンケート結果より

- ・「とても住みよい」が高いのは「20代」から「40代」で半数程度ありますが、50代以上は30%程度となっています。
- ・「住みよい」と「とても住みよい」を合わせた割合が高いのは「40代」で91.6%、「20代」、「30代」と「80代」でも80%台後半～90%程度と高くなっており、そのほかの年代でも85%程度となっています。

(8) 隣近所との関係

問15 あなたと隣近所との関係は次のどれに近いですか。

隣近所との関係について尋ねたところ、「あいさつをする程度」の割合が51.0%と最も高く、「たまに立ち話をする程度」の28.4%と合わせると79.4%となり、本町民の多くは、あいさつやたまに立ち話をする程度の近所つきあいをしていることが分かります。。なお、「つきあいはほとんどない」人の割合は1割強となっています。

一方、「お互い誘い合って集まる」の割合は3.8%、「困ったことの相談をする」が2.1%、「物の貸し借りをする」が1.3%と、比較的親密な近所づきあいのある人は少数であることがうかがえます。

●前回アンケート結果より

- ・隣近所とのつきあいの状況は、「あいさつをする程度」が52.1%と最も高く、次に「たまに立ち話をする程度」が29.1%で、合わせると81.2%と大半の方はさらりとした近所づきあいとなっています。
- ・「お互い誘い合って集まる」が4.4%、「困ったことの相談をする」が2.1%、「物の貸し借りをする」が1.6%、と親密なつきあいのある方が8.1%となっています。
- ・「つきあいはほとんどない」は7.3%となっています。

年代別にみると、「60代」以下の年代では、「あいさつをする程度」の割合が最も高く、「20代」から「50代」では6割前後、「60代」で5割弱となっています。また、「70代」以上の年代では、「たまに立ち話をする程度」の割合が最も高く、「70代」、「80代以上」ともに5割前後となっています。

また、「つきあいはほとんどない」と回答した人の割合は、「20代」が最も高く21.7%となっています。「つきあいはほとんどない」と回答した人の割合は、年代が下がるにつれ高くなっているため、将来さらに近所づきあいが希薄化していくことを示唆している可能性があります。

●前回アンケート結果より

- ・年代別にみると、あいさつをする程度のつきあいは、「20代」が67.7%、「30代」が65.7%、「40代」が64.0%と高くなっていますが、年代が高くなるほど割合は低くなっています。
- ・たまに立ち話をする程度のつきあいは、「20代」が10.4%と低く、年代が高くなるほど割合は概ね高くなり「70代」、「80代」は40%台となっています。
- ・「つきあいはほとんどない」は、「20代」が17.7%と高く、それ以外の年代では10%未満と低くなっています。

小学校区別にみると、小学校区で大きな傾向の差はありません。いずれの小学校区でも「あいさつをする程度」と回答した人の割合が最も高く、次いで「たまに立ち話をする程度」、「つきあいはほとんどない」と続いています。

(9) 近所づきあいの考え方（複数回答）

問16 あなたは、近所づきあいについて、どのように考えていますか。

近所づきあいの考え方について尋ねたところ、「地域の見回り、不審者情報の共有など防犯のために必要」が47.6%と最も高く、次いで「日頃の生活の中で助け合っていくために必要」が37.9%、「地震や台風など災害が起こったときの助け合いのために必要」が32.5%、「近所づきあいは必要と感じるが、わずらわしいのであまりしたくない」が21.7%と、防犯や災害に対する危機意識(危険から身を守るために必要)から、近所づきあいの必要性をあげる方が多くなっています。

一方、「近所づきあいは必要と感じるが、わずらわしいのであまりしたくない」と考えている人が21.7%いる他、4.3%が「近所づきあいの必要性を感じない」と答えています。

●前回アンケート結果より

- ・「地域の見回り、不審者情報の共有など防犯のために必要」が45.1%と最も高く、次に「日頃の生活の中で助け合っていくために必要」が41.7%と2つが40%以上を占め、「地震や台風など災害が起こったときの助け合いのために必要」が32.0%となっており、防犯や災害に対する危機意識(危険から身を守るために必要)から、近所づきあいの必要性をあげる方が多くなっています。
- ・「近所づきあいは必要と感じるが、わずらわしいのであまりしたくない」が20.7%、「近所づきあいの必要性を感じない」が5.0%と近所づきあいに否定的な考えの方が、25.7%と少なくとも4分の1程度います。

年代別にみると、「20代」から「50代」では「地域の見回り、不審者情報の共有など防犯のために必要」、「60代」以上の年代では「日頃の生活の中で助け合っていくために必要」と回答した人の割合が最も高くなっています。

●前回アンケート結果より

- ・年代別にみると、「地域の見回り、不審者情報の共有など防犯のために必要」は若い世代が高く、「20代」から「40代」が50%台となっており、そのほかでは「80代」が高く、43.8%となっています。
- ・「日頃の生活の中で助け合っていくために必要」は年代が上がるとともに割合は高くなり、「20代」から「40代」では30%台ですが、70代以上では50%以上と高くなっています。
- ・「地震や台風など災害が起こったときの助け合いのために必要」は年代による差はあまりみられません、比較的若い世代が高く「30代」が37.4%となっています。
- ・「近所づきあいは必要と感じるが、わずらわしいのであまりしたくない」は、「30代」が26.3%と最も高く、「80代」が4.1%と最も低くなっています。
- ・「地域のまとまりのために必要」は年代が高いほど割合も高く、50代以上では20%以上の割合となっています。

小学校区別にみると、小学校区で結果に大きな傾向の差はなく、「日頃の生活の中で助け合っていくために必要」、「地域の見回り、不審者情報の共有など防犯のために必要」、「地震や台風など災害が起こったときの助け合いのために必要」と回答した人の割合が高く、いずれの小学校区でも上位3項目を占めています。

上位3項目以外では、「近所づきあいは必要と感じるが、わずらわしいのであまりしたくない」と回答した人の割合が高く、各小学校区とも2割前後となっています。

●前回アンケート結果より

- ・「地域の見回り、不審者情報の共有など防犯のために必要」は、「翔南小学校区」は39.2%と他小学校区より低くなっておりませんが、そのほかの小学校区では40%台後半と高くなっておりま
- ・「日頃の生活の中で助け合っていくために必要」は、「南風原小学校区」と「翔南小学校区」で40%台後半と高くなっています。「地震や台風など災害が起こったときの助け合いのために必要」は「北丘小学校区」、「津嘉山小学校区」が37%程度と高く、「南風原小学校区」と「翔南小学校区」は20%台と低くなっておりま
- ・近所づきあいに否定的な「近所づきあいは必要と感じるが、わずらわしいのであまりしたくない」、「近所づきあいの必要性を感じない」を合わせた割合は、「北丘小学校区」が30.4%と最も高く、次に「津嘉山小学校区」が24.2%、「翔南小学校区」が23.1%、「南風原小学校区」が23.0%となっています。「地域のまとまりのために必要」は「翔南小学校区」が27.4%と最も高くなっています。

同居家族別にみると、いずれの同居家族の場合でも結果に大きな傾向の差はなく、「日頃の生活の中で助け合っていくために必要」、「地域の見回り、不審者情報の共有など防犯のために必要」、「地震や台風など災害が起こったときの助け合いのために必要」と回答した人の割合が高く、いずれの場合でも上位3項目を占めています。

上位3項目以外では、「近所づきあいは必要と感じるが、わずらわしいのであまりしたくない」と回答した人の割合が高く、いずれの同居家族の場合においても、1割台後半から2割台後半の割合となっています。

(10) 日常生活の孤独感

問19 日常生活をしていて、孤独感がありますか。

日常生活をしていて、孤独感を感じるか尋ねたところ、全体では、「ほとんど感じない」と回答した人の割合が44.0%と最も高く、次いで「あまり感じない」が35.2%、「ときどき感じる」が14.6%の順となっています。

年代別でみると、孤独感を「よく感じる」と「ときどき感じる」を合わせた、孤独感を『感じる』人の割合は、「80代以上」が27.7%と最も高く、次いで「60代」が20.4%、「70代」が18.9%の順となっています。「50代」から「60代」で孤独感を『感じる』人の割合が4.9ポイント増加しており、高齢期に孤独感を感じる人が増えることがうかがえます。

小学校区別にみると、小学校区で結果に大きな傾向の差はなく、孤独感を『感じる』人の割合は、「津嘉山小学校区」が18.6%と最も高く、次いで「翔南小学校区」が18.3%、「北丘小学校区」が17.1%、「南風原小学校区」が15.3%の順となっています。

同居家族別にみると、孤独感を『感じる』人の割合は、「障がい者」がいる世帯で27.6%と最も高く、次いで「いずれもいない」世帯が19.5%、「要介護者」のいる世帯が18.0%の順となっています。

さらに、孤独感を『感じる』人の割合は、「専門・大学生」のいる世帯で17.8%、「乳児」のいる世帯で15.5%、「幼児」、「小学生」のいる世帯で共に12.9%、「中・高校生」のいる世帯で10.6%となっており、子育て世帯においても孤独感を感じている人が一定程度いることがわかります。

(11) 地域活動・行事への参加状況

問20 あなたは現在、地域活動やボランティア活動に参加していますか。

地域活動やボランティア活動への参加について尋ねたところ、全体では「参加したことはない」が57.2%と最も高く、次いで「以前は参加していたが、現在は参加していない」が22.5%、「参加している」が17.0%の順となっています。

年代別にみると、「参加したことはない」人の割合は「20代」、「30代」、「40代」の若い世代ほど高く、「20代」では71.3%、「30代」では76.8%と7割を超えています。一方、「参加している」人の割合は「50代」を境に増加し、「60代」以上の年代では2割台半ばとなっています。

●前回アンケート結果より

- ・地域の活動や行事への参加については、「まったく参加していない」が44.7%、「あまり参加していない」が17.9%で合わせると62.6%となっています。参加している割合は、「よく参加している」が11.9%、「時々参加している」が20.2%で合わせると32.1%となっています。
- ・年代別にみると、「まったく参加していない」は「20代」が65.6%と最も高く、年代が高くなるほど割合は低くなる傾向にあり、「80代」では20.5%となっています。
- ・「まったく参加していない」と「あまり参加していない」を合わせた参加していない割合も年代があがるとともに割合は低くなっており、「20代」が81.2%に対し、「80代」では34.2%となっています。

小学校区別にみると、「参加したことはない」人の割合は「津嘉山小学校区」が67.4%と最も高く、「翔南小学校区」が47.9%と最も低くなっています。

自治会への加入状況別にみると、「参加したことはない」人の割合が、自治会に「加入している」人では40.4%に対し、自治会に「加入していない」人では79.1%と、2倍近くの差になっており、自治会への加入状況によって、地域活動や行事への参加状況が大きく変わる結果となっています。

自治会に加入していない世帯への、地域活動や行事等の周知や参加促進のための取組の状況を把握し、自治会への加入促進を図ることの必要性がうかがえます。

●前回アンケート結果より

- ・小学校区別にみると、「まったく参加していない」は「翔南小学校区」が27.4%と最も低く、「津嘉山小学校区」は52.8%と半数以上を占めます。
「よく参加している」と「時々参加している」を合わせた参加している割合は「翔南小学校区」が49.4%を占め、その他の地域は20%台後半となっています。
- ・自治会の加入の状況別にみると、「まったく参加していない」は「加入している」が25.3%であるのに対し、「加入していない」では75.8%と、未加入者の割合が加入者の割合を大きく上回ります。一方、「よく参加している」と「時々参加している」を合わせた参加している割合は「加入している」が49.7%、「加入していない」が8.0%となっており、加入者の割合が未加入者の割合を大きく上回っています。

(12) 地域活動に参加していない理由

問20-1 参加していない主な理由は何ですか。

「(11)地域活動・行事への参加状況」で、「以前は参加していたが、現在は参加していない」又は「参加したことはない」と答えた方に、その主な理由を尋ねたところ、「自分の生活だけで精いっぱいだから」と回答した人の割合が39.9%と最も高く、次いで「活動場所・活動内容がわからないから」が22.5%、「いっしょに参加する仲間(知人)がいないから」が18.6%、「体力や健康状態がよくないから」が16.8%、「興味がないから」が14.7%の順となっています。

「活動場所・活動内容がわからないから」、「いっしょに参加する仲間(知人)がいないから」、「誘いがないから」といった回答をされた人には、地域活動への参加意向がある可能性があるため、地域活動の周知や参加促進の取組を行うことで、地域活動への参加者を増やす効果が期待できます。

●前回アンケート結果より

- ・「(10)地域活動・行事への参加状況」で、「あまり参加していない」又は「まったく参加していない」と答えた方のその主な理由としては、「忙しくて時間がないから」が38.3%と最も高く、次に「興味が無いから」、「活動内容がよくわからないから」が12.3%となっています。
- ・活動がよくわからない、仲間がいない、誘いがないといった理由については、活動の周知や参加への誘いを行うことで、活動への参加者は増えることが考えられます。

自治会への加入状況別にみると、「活動場所・活動内容がわからないから」と回答した人の割合が、自治会に「加入している」人では15.3%に対し、自治会に「加入していない」人では29.2%と、2倍近くの差になっており、自治会未加入者へ地域活動の情報が十分に届いていない状況がうかがえます。

(13) 地域活動への参加意向

問21 あなたは、今後(今後も)地域活動に参加したいと思いますか。

今後(今後も)地域活動に参加したいと思うか尋ねたところ、「わからない」と回答した人が33.6%と最も高く、次いで「参加したい」が26.9%、「どちらかといえば参加したくない」が19.1%、「参加したくない」が8.2%、「ぜひ参加したい」が6.9%の順となっています。

「ぜひ参加したい」と「参加したい」を合わせた33.8%が今後参加したい意向を持っており、「どちらかといえば参加したくない」と「参加したくない」を合わせた27.3%は今後参加したくないと感じていることとなります。

●前回アンケート結果より

- ・今後の地域活動への参加意向は、「参加したい」が33.0%と最も高く、次いで「わからない」が28.1%となっています。

(14) 地域の支え合いに期待すること・必要に思うこと（複数回答）

問22 あなたが、地域の支え合いに期待すること(必要に思うこと)は何ですか。

地域の支え合いに期待すること・必要に思うことを尋ねたところ、「災害や緊急事態が起きた時の助け合い」が51.9%と最も高く、次いで「一人暮らし高齢者等の見守りや声かけ」が42.8%、「地域の見回り、不審者情報の共有など防犯」が42.6%の順となっています。

小学校区別にみると、すべての小学校区で「災害や緊急事態が起きた時の助け合い」と回答した人の割合が半数前後を占めており、小学校区による大きな傾向の差は見られませんが、「北丘小学校区」が55.9%と最も高くなっています。また、「一人暮らし高齢者等の見守りや声かけ」「地域の見回り、不審者情報の共有など防犯」と回答した人の割合もすべての小学校区で40%以上と高くなっています。

同居家族別にみると、「乳児」、「幼児」、「小学生」、「中・高校生」のいる子育て期の世帯では、「災害や緊急事態が起きた時の助け合い」と「地域の見回り、不審者情報の共有など防犯」と回答する人の割合が高く、「高齢者」や「要介護者」のいる世帯では、「災害や緊急事態が起きた時の助け合い」と「一人暮らし高齢者等の見守りや声かけ」と回答する人の割合が高くなっています。

そのほか、「乳児」、「幼児」のいる世帯では「一時的に子どもを預かるなどの支援」、「障がい者」のいる世帯では「障がい者等への理解」と回答する人の割合が高くなっています。

(15) 日常生活の中で手伝ってほしいこと（複数回答）

問23 あなたは、地域の方に日常生活のなかで手伝ってほしいと思っていることがありますか。

地域の方に日常生活の中で手伝ってほしいことについて尋ねたところ、「手伝ってほしいことはない」と回答した人の割合が43.4%と最も高く、「無回答」の4.9%を合わせると48.3%と半数近くにのぼりますが、残りの51.7%の人は具体的なニーズをあげています。

具体的な内容は、「地震や台風など災害時・緊急時の手助け」と回答した人の割合が31.8%と最も高く、次いで「見守りや安否確認の声かけ」が19.7%で、この2つの手伝いを希望する人が特に多い結果となっています。

同居家族別にみると、同居の家族によらず「手伝ってほしいことはない」「地震や台風など災害時・緊急時の手助け」と回答した人の割合が高く、「乳児」、「幼児」、「高齢者」、「要介護者」、「障がい者」、「小学生」、「中・高校生」のいる世帯では、「見守りや安否確認の声かけ」も2割程度と比較的に高くなっています。

また、「乳児」のいる世帯では、「短時間の子どもの預かり」が34.5%、「子育ての相談」が20.7%、「子どもの孤立（子どもの貧困対策）の支援」が20.7%と、それぞれ高くなっています。

(16) 日常生活の中で手伝ってもよいと思うもの（複数回答）

問24 あなたは、地域の方へ日常生活のなかで手伝ってもよいと思うものは何ですか。

地域の方へ日常生活の中で手伝ってもよいと思うものについて尋ねたところ、「地震や台風など災害時・緊急時の手助け」の割合が35.8%と最も高く、次いで「見守りや安否確認の声かけ」が32.7%となっています。

一方、「様々な理由により手助けできない」が19.3%となっています。

年代別でみると、全ての年代で「見守りや安否確認の声かけ」と「地震や台風など災害時、緊急時の手助け」の割合が高くなっています。また、「70代」と「80代以上」を除くすべての年代で「地域の行事・イベント」の割合が高くなっています。

一方、「70代」と「80代以上」の3割程度が「様々な理由により手助けできない」と回答しています。

同居家族別にみると、全ての世帯で「見守りや安否確認の声かけ」と「地震や台風など災害時、緊急時の手助け」の割合が高くなっています。

(17) 生活や福祉に関する相談窓口

問26 生活や福祉に関する相談のために、どんな窓口があるといいと思いますか。

生活や福祉に関する相談のためにどんな窓口があるといいか尋ねたところ、「どんな相談でも断らず対応してくれる相談窓口」の割合が35.3%と最も高く、次いで「必要に応じて困っている人の所まで訪問して相談事に対応してくれる窓口」が19.2%、「中学校区程度の身近な地域で相談を受けることができ、適切な機関に繋いでくれる窓口」と「オンラインで相談できる窓口」がそれぞれ17.3%となっています。

年代別にみると、「20代」と「30代」では「オンラインで相談できる窓口」と回答した人の割合が、「40代」以上の年代では「どんな相談でも断らず対応してくれる相談窓口」と回答した人の割合が最も高くなっています。また、「50代」以上の年代では「必要に応じて困っている人の所まで訪問して相談事に対応してくれる窓口」の割合も2割台となっており、中高年がアウトリーチ型相談窓口を望んでいる様子がわかります。

(18) 福祉情報の入手先（複数回答）

問31 あなたは、福祉に関する情報をどこから入手していますか。

町が発信する福祉の情報をどこから入手しているか尋ねたところ、「町の広報紙」の割合が48.2%と最も高く、次いで「家族や親族」が25.9%、「友人や知人」が22.7%、「町社会福祉協議会の広報誌」が17.6%の順となっています。

●前回アンケート結果より

- ・福祉に関する情報の入手先としては、「町の広報紙」が44.9%と最も高く、続いて「町社会福祉協議会の広報紙」、「家族や親族」が23.1%、「友人や知人」が19.9%となっています。

年代別にみると、年代に関わらず「家族や親族」、「友人や知人」、「町の広報紙」の割合が高い傾向となっています。「20代」の4割程度が「家族や親族」、「30代」と「40代」の4割前後、「50代」の5割弱、「60代」の6割弱、「70代」の6割台半ば、「80代以上」の4割台半ばが「町の広報紙」より福祉情報を入手している結果となっています。

「20代」と「30代」で「どこからも情報は得ていない」の割合が2割弱となっています。

●前回アンケート結果より

- ・「町の広報紙」は「20代」が33.3%と最も低く、そのほかの年代ではいずれも40%を越え、「60代」が52.5%と最も高くなっています。「町社会福祉協議会の広報紙」は「20代」が9.4%と最も低く、年代が高くなるほど割合も高くなり、「80代」が37.0%と高くなっています。
- ・「家族や親族」は「20代」が最も高く33.3%、次いで「80代」が高く27.4%となっています。

(19) 福祉の充実を図るために必要なこと（複数回答）

問35 南風原町における福祉の充実を図るために、必要なことは何ですか。

南風原町における福祉の充実を図るために、必要なことは何かと尋ねたところ、「保健・医療・福祉に関する情報提供の充実」の割合が50.6%と最も高く、次いで「身近で確かな相談が受けられること」が47.7%、「人にやさしいまちづくり（道路・建物等のバリアフリー化）」が37.4%、「支援が必要な高齢者、障がい者、子育て家庭等の見守りや生活支援」が32.6%、「子どもの孤立（貧困対策）」が27.6%の順となっています。

●前回アンケート結果より

- ・「保健・医療・福祉に関する情報提供の充実」が51.3%でもっとも高くなっています。次いで「身近で確かな相談が受けられること」43.0%、「人にやさしいまちづくり」35.0%、「支援が必要な高齢者、障がい者、子育て家庭等の見守りや生活支援」30.1%となっています。

同居家族別にみると、全ての同居家族世帯で、半数程度が「身近で確かな相談が受けられること」、「保健・医療・福祉に関する情報提供の充実」が重要であると回答しています。

(20) 地域福祉に関する用語

問38 あなたは、地域福祉に関する以下の用語を知っていますか。

地域福祉に関する用語を知っているか尋ねたところ、「内容を知っている」の割合が一番高いのは「ヤングケアラー」の55.0%、次いで「民生委員・児童委員」の39.4%、「南風原町社会福祉協議会」の31.2%の順となっています。

一方、「知らない」の割合が一番高いのは「我が事・丸ごと」の地域づくりが77.8%、次いで「小地域福祉ネットワーク活動」が70.1%となっています。

●前回アンケート結果より

- ・地域福祉に関する用語を知っているか聞いたところ「内容を知っている」が一番多いのは「民生委員・児童委員」の48.0%、次いで「南風原町社会福祉協議会」が35.0%、「成年後見制度」が32.3%となっています。
- ・「知らない」が一番多いのは「我が事・丸ごと」の地域づくりが76.2%、次いで「小地域福祉ネットワーク活動」が62.6%となっています。

(21) 成年後見制度、日常生活自立支援事業の周知度など

問39 成年後見制度、日常生活自立支援事業についてお尋ねします。

①成年後見制度の周知度

成年後見制度を知っているか尋ねたところ、全体では「名称も制度内容も知っている」が33.2%、「名称は聞いたことがあるが、制度内容はわからない」が37.4%、合わせて、「知っている」が70.6%となっています。

年代別にみると、「知っている」割合は「50代」までは年代が上がる程高くなり、「60代」以降で低くなっています。一方、「名称も制度内容も知らない」割合は「70代」までは年代が上がる程低くなる傾向となっています。

小学校区別でみると、全ての小学校区で「知っている」割合が7割前後と高い傾向となっていますが、「津嘉山小学校区」は67.7%と、他小学校区よりやや低くなっています。

同居家族別でみると、「知っている」割合は「高齢者」のいる世帯が75.5%と最も高く、次いで「幼児」のいる世帯が73.6%、「要介護者」のいる世帯が73.3%となっており、「いずれもない」世帯は65.8%と最も低くなっています。

②日常生活自立支援事業の周知度

日常生活自立支援事業を知っているか尋ねたところ、全体では「名称も制度内容も知っている」が14.4%、「名称は聞いたことがあるが、制度内容はわからない」が39.3%、合わせて、「知っている」割合が53.7%となっています。

年代別でみると、「知っている」割合は「60代」までは年代が上がる程高くなり、「70代」以降で低くなっています。一方、「名称も制度内容も知らない」割合は「60代」までは年代が上がる程低くなっています。

同居家族別でみると、「知っている」割合は「障がい者」のいる世帯が59.5%と最も高く、次いで「中・高校生」のいる世帯が58.4%、「要介護者」のいる世帯が58.0%の順となっています。

一方、「名称も制度内容も知らない」割合は「小学生」のいる世帯が52.1%と最も高く、次いで「幼児」のいる世帯が46.8%、「専門・大学生」のいる世帯が45.7%の順となっています。